水 文・ 水 資 源 学 会 誌
J. Japan Soc. Hydrol. and Water Resour.
Vol. 35, No.1, Jan. 2022 pp. 3 - 4

学会賞受賞記念寄稿

学術賞を拝受して思うこと

河村　明*

この度は，令和3年度水文・水資源学会学術賞という大変栄誉ある賞を頂くこととなり，これまで表彰にほとんど縁の無い私にとりまして，正に近年希な良い事象での晴天の霹靂であり，望外の喜びであります．本当に心より御礼申し上げます．

そもそも，事の始めは8月上旬に学会事務局より突然一通の電子メールが届いたことに始まります．内容は，学術賞の授与が決まったので総会に出席して授賞式でひと言挨拶をお願いしたいというものでした．私はすぐに送信相手を間違えたのではと思い確認のメールを返しました．その後，郵送での授与決定通知書が届きこれは間違いと思いました．そうすると次は，どなたが私のためにわざわざ汗をかいて推薦書を作成して下さったのかという疑問が生じました．私のこれまでの経験では色々な推薦書は一番良く知っている本人が書くものというのが常識でしたので，事前に私に作成依頼の連絡も無く決まったということは，そうか，理事会や表彰選考委員会か何かでどなたかが，7期にわたり理事・監事を勤めてきて受賞のない私を不憫？に思い論功行賞的に受賞候補者として名前を挙げて下さり，誰かに推薦書作成を依頼したと思いました．その場合当然，都立大赴任以降二人三脚で研究などを行ってきた相棒の天口助教に依頼するはずと思い，今回わざわざ過分な仕事を押しつけられ申し訳無く且つ引き受けてくれたお礼を伝えようとしたところ，作成依頼はなかったことを知りました．

謎は謎のまま残り，そして今年の研究発表期間中ではなくその1週間前に独立して開催されたWeb会議システムでの総会で，受賞理由を伺い，時間を費やしてわざわざ推薦書を作成してくださったのは，三重大学の葛葉先生に違いないと確信するに至りました．早速，葛葉先生に推薦書作成の確認とお礼のメールを差し上げたところ，「受賞されましたか．良かったです」と，その時初めて私の受賞を知ったとのことです．葛葉先生曰く「学術賞の推薦書を提出したものの，選考は水ものなので，何があるかわからず，ご本人のご存じないところで進む方がいいかなと思って書かせていただきました．かえって（黙ってやって）失礼がありましたら申し訳ございません」とのことで，誠に恐縮至極で，この紙面をお借りして改めてお礼申し上げます．

因みに，何故推薦して下さったのか一応理由を伺ったところ，私が今年3月に都立大を定年退職するにあたって，オンラインがメインの最終講義を行いましたが，その時に対面で参加して下さり，私の研究業績リストや研究紹介などを見て，葛葉先生は学術賞選定に至った規準をよくご存じなので，それに照らし合わせて学術賞に相応しいと思って下さったようです．通常はそのように思っても他人のためにわざわざ面倒な推薦書を作成するようなことはしないでしょうし，私にそのような人徳が無いのは自覚していますので，やはり，過去によく一緒に飲みに行って主に研究以外の話で大いに盛り上がり，今回定年退職という最後の節目にあたり一肌抜いでくださったものと推察しております．

さて，今回の学術賞受賞の理由として，私のこれまでの業績全般にわたって言及されておりますので，その業績（原稿執筆時点）を述べさせて頂くと，査読学術論文198編（その内，Impact Factorジャーナル44編），国際会議論文125編，講演論文325編，紀要類29編，総説類15編，著書・事典類11冊となっています．この

* 東京都立大学 名誉教授・特任教授

業績数は，本学会の中にあっては決して多くはなく，若い研究者の中にもこれを上回る方が少なからずおられます．また，これらの業績の大半は，私が九州大学の助教授の時に実質的に指導（九大では助教授はドクターの主査にはなれないので）を行った5名の博士後期学生，および東京都立大学に赴任以降主査として指導した15名の博士課程学生によるものです．この場を借りて感謝申し上げます．これら20名の指導学生の内11名が留学生で，6名が社会人ドクターですが，彼ら/彼女らの研究内容ディスカッションや論文執筆指導のため少なくとも毎週土曜日（日祝日も時々）はドクターのゼミを行い，「貧乏暇無し」状態に陥ってしまったことが今一番の印象として残っています．特に，6名の留学生の奨学金は東京都の大型研究プロジェクト予算が運良く取れたお陰です．やはり業績は，優秀な留学生を採用できるような研究資金を獲得できるかどうかに左右されることを思い知らされています．

私の研究内容は，一応，水に関することなら何でもオーケーという水文学ですが，研究の始まりは昭和53（1978）年私が九大修士1年の時に発生した給水制限日数287日という未曾有の福岡大渇水でした．そして修士論文は本渇水時における貯水池の利水操作に関する内容でした．博士論文では（特に適応的カルマンフィルターによる）水文気象時系列の実時間予測や解析を行い，その後福岡都市圏を対象に，水資源の意志決定支援システム・最適運用管理，ゲートの実時間最適制御，配水管網の水圧制御等々の研究を行いました．この頃，水に関係の無い変わり種の研究として，実時間予測とカオス理論を組み合わせて太陽黒点数の予測を行い，既存の統計的手法よりも高い精度で予測を行えることを示し，これが国際雑誌（Journal of Geophysical Research）の宇宙物理学（Space Physics）分野に掲載されました．

都立大赴任後は，都立大と云うことで都市中小河川流域を対象とした新しい分布型・集中型モデルや深層学習モデルによる豪雨流出解析，地物データGISを用いた都市流域地下水涵養・蒸発散モデルの開発，留学生によるベトナム紅河デルタの地下水資源（地下水位・水質・持続性評価）に関する研究，フィリピン・メトロマニラにおける総合洪水リスクマネジメントに関する研究等々を行ってきました．

以上振り返って，結構多岐にわたる研究を行い，思えば遠くへきたものだの心境ですが，反省事項として，特に最近は，留学生には奨学金支給期間である3年で博士号を取得させることが絶対命題となり，社会に応用されるべく本質的な研究というよりも，何となく，論文が採択されるようにそのテクニックを中心とした指導に偏っていたような気がしています．

末筆ながら，私も今しばらくは大学で研究活動を継続するかと思いますので，会員の皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます．この度は誠にありがとうございました．

略歴：

1978年3月　熊本大学工学部環境建設工学科土木コース卒業
1980年3月　九州大学大学院工学研究科水工土木学専攻修士課程修了
1985年3月　九州大学大学院工学研究科水工土木学専攻博士後期課程単位取得退学
1985年4月　九州大学 工学部 助手
1993年6月　九州大学 工学部 助教授
2004年10月　東京都立大学 大学院工学研究科 教授
2021年4月　東京都立大学 名誉教授

この間水文・水資源学会にて：

1988年　入会（この年の12月に学会誌1巻1号発行される）
2004年　第9期 編集出版委員長
2012年　第13期 総務委員長
2014年　第14期 副会長（2015年総会・研究発表会実行委員長）
2016年　第15, 16期 監事